

天草周辺の沿岸環境

－介形虫からみた天草の海－

参加
無料



10/28(土)

13:00-14:30

熊本大学合津マリンステーション
(上天草市松島町合津6061)

共催：熊本大学・熊本地方気象台・
国土交通省阿蘇砂防事務所

対象：どなたでも

話題提供

田中 源吾

(くまもと水循環・減災研究教育センター)

介形虫(かいけいちゅう)は、ゴマ粒より小さく、二枚貝の中にエビが入ったような生物で、約5億年前から現在まで海の中で生き続けています。介形虫は種(種類)ごとに地形・環境にあわせて棲んでおり、有明海や八代海でも、それぞれ海況の異なる場所に分布しています。この特徴を利用することで過去の海洋環境の移り変わりを推定することが出来ます。調べてみると氷期(氷河期)にユーラシア大陸沿岸から引っ越してきた種もいることがわかってきました。今回は介形虫からみた天草の海をご紹介します。



海域によって違う介形虫たち(群集)が棲んでいる 船上での標本採取の様子



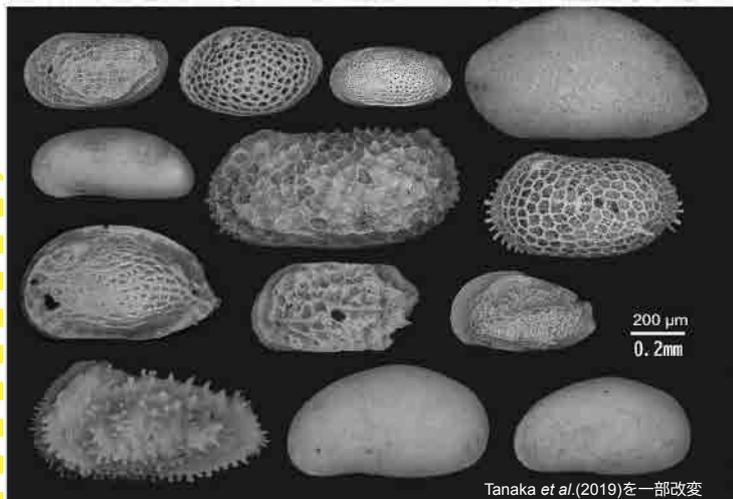
お申込み・お問い合わせ先

熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター
減災型社会システム部門

下記 Web ページか下の二次元コードからお申込み下さい。
<https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/disaster/>
お電話の場合は 096-342-3489 (平日 9:00-16:00)
締切り 10月27日 12:00 (ただし定員に達し次第締め切ります)

定員30名

お早めに!



Tanaka et al.(2019)を一部改変

天草周辺の海に棲んでいる介形虫の電子顕微鏡写真

くまもとサイエンスカフェとは?

お茶を飲みながらゆったりとした対話形式で、熊本の自然や歴史を学び、得られた知見を暮らしや防災・減災に役立て頂くことを目的とした取り組みです。

🔍 熊大 減災センター ×

サイエンスカフェ年間スケジュールなど詳細はHPをご覧ください